日本の資源と産業

名前

問1　日本における主要な発電方式の立地特性について説明した文章のうち、火力発電と水力発電の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。（2019年 岩手県公立入試 類似）

1. 火力発電は山間部のダム周辺に立地し、水力発電は送電効率を重視して都市の近郊に立地する。
2. 火力発電は地形が急峻な河川の上流部に立地し、水力発電は燃料の輸入に便利な港湾部に立地する。
3. 火力発電は電力需要の大きい都市や工業地帯の付近に立地し、水力発電は地形が急峻な河川の上流部に立地する。
4. 火力発電は冷却水が得やすい人口密度の低い海岸部に立地し、水力発電は電力需要の大きい都市付近に立地する。

問2　1960年から1980年にかけての統計によると、大阪府全体の人口が約550万人から847万人へと大幅に増加する中で、大阪市の人口は約301万人から264万人へと減少しました。一方で、周辺の堺市、豊中市、枚方市などでは人口が数倍に増加する現象が見られました。このような、都市の中心部から郊外へと人口が移動した背景にある、当時の住宅開発の動きとして最も適切なものはどれですか。（2016年 山口県公立入試 類似）

1. 都市部の過密を解消するため、鉄道沿線などの郊外にニュータウンと呼ばれる大規模な住宅団地が建設された。
2. 農村部の過疎化を食い止めるため、地方公共団体が中心となって大規模な農地造成と集落の移転を行った。
3. 都心部の地価が下落したため、職住近接を目的として中心部に高層マンションが次々と建設された。
4. 工場をすべて郊外へ移転させた跡地を利用して、低所得者向けの小規模な賃貸住宅が都心部に集中して建てられた。

問3　伝統的工芸品の産地形成には、歴史的な背景や地理的な立地条件が大きく関係しています。兵庫県小野市や島根県奥出雲町において、他地域から伝えられたそろばんの製法が定着し、現在まで続く伝統産業となった主な要因の組み合わせとして、正しいものはどれですか。（2023年 広島県公立入試 類似）

1. 森林を保護するための禁伐政策と、近隣都市への製品運搬鉄道
2. 原材料としての豊富な木材と、加工に欠かせない刃物類の生産技術
3. 鉄鋼業から転換したプラスチック加工技術と、広大な工業団地
4. 海外から輸入される安価な木材と、大規模な自動化工場

問4　東京などの大消費地の周辺で行われる農業について、2015年の統計では野菜の産出額上位10道県のうち、茨城県、千葉県、群馬県、埼玉県、栃木県といった関東地方の県が5つ含まれています。このように、大都市までの距離が近いという立地の利点を生かし、収穫したばかりの新鮮な農産物を供給する農業の名称として適切なものはどれですか。（2017年 鳥取県公立入試 類似）

1. 促成栽培
2. 粗放的農業
3. 近郊農業
4. 抑制栽培

問5　日本の九州地方には多くの火山が存在しており、地下の熱や水蒸気を利用した発電所が複数立地しています。この地域特性を生かした再生可能エネルギーによる発電方法として最も適切なものを1つ選びなさい。（2025年 岩手県公立入試 類似）

1. 水力発電
2. バイオマス発電
3. 地熱発電
4. 風力発電

問6　日本の主な工業地帯・地域における製造品出荷額の内訳をまとめた統計において、出荷額の約半分を「輸送用機械」が占めている、日本で最も製造品出荷額が大きい工業地帯を何といいますか。（2018年 群馬県公立入試 類似）

1. 北九州工業地帯
2. 中京工業地帯
3. 阪神工業地帯
4. 京浜工業地帯

問7　近年の日本の農業において、地球温暖化に伴う夏季の気温上昇に対応するために行われている「品種改良」の目的として、最も適切な説明はどれですか。（2026年 山梨県公立入試 類似）

1. 高温環境下でも安定した品質と収穫量を維持し、気候変動による影響を抑えるため
2. 化学肥料の使用量を大幅に増やすことで、農作物の成長スピードを速めるため
3. 冷害による被害を最小限に抑えるため、寒冷な気候に強い農産物を普及させるため
4. 農作物の輸出額を増やすために、海外の気候に合わせた種をそのまま導入するため

問8　火山地帯の蒸気を利用した発電施設の統計において、大分県が国内でも高い発電量を誇っている理由として、地理的な背景から説明したものとして正しいものはどれですか。（2021年 佐賀県公立入試 類似）

1. 大分県には活火山が多く分布し、地下の熱エネルギーを得やすい環境にあるため
2. 大分県は年間を通じて強い偏西風が吹く海岸線に位置しているため
3. 大分県は平坦な土地が広く、巨大な太陽光パネルを並べるのに適しているため
4. 大分県には急峻な地形と豊かな水量を持つ河川が多く、大規模なダムが多いため

問9　群馬県、愛知県、三重県などの地域において、総人口に占める在留外国人の割合が高い数値を示している理由として、これらの地域の産業的特徴をふまえた説明として正しいものはどれですか。（2026年 青森県公立入試 類似）

1. 県庁所在地に政治的機能が集中しており、公務員として働く外国人が多いため
2. 自動車産業などの製造業が盛んであり、多くの労働力を必要としているため
3. 大規模な農業経営が行われており、第一次産業の就業者が不足しているため
4. 自然豊かな観光地が多く、宿泊業や飲食業といったサービス業が中心であるため

問10　日本の輸入資源のうち、オーストラリア、マレーシア、カタールなどが主な輸入先となっており、気体の状態で産出したものをマイナス162℃まで冷却し、液体にして運搬される資源はどれですか。（2018年 北海道公立入試 類似）

1. 原油
2. 地熱
3. 液化天然ガス
4. 石炭

問11　地形図上で「3つの点が三角形の形に並んでいる地図記号」が広く分布している地域について、その土地利用の背景や特徴を説明した文として正しいものを次の中から選びなさい。（2017年 山形県公立入試 類似）

1. 水分を蓄えやすい低地を利用して、稲作が盛んに行われている。
2. 水はけの良い台地や傾斜地を利用して、茶などの栽培が行われている。
3. 建築用の木材を確保するために、冷涼な気候の山岳地帯に針葉樹が植えられている。
4. リンゴやミカンなどの果実を収穫するため、平坦な土地が活用されている。

問12　日本の産業と資源に関する説明のうち、火力発電所の立地とその背景について述べたものとして正しいものはどれですか。（2016年 高知県公立入試 類似）

1. 原子力発電所に比べて事故のリスクが低いため、燃料の輸送距離を無視して大都市の市街地中心部に立地している。
2. 燃料を積んだ船が直接到着できる臨海部に立地することで、輸入から発電までの輸送効率を高めている。
3. 山間部のダムを利用して発電するため、内陸部の急峻な地形に近い場所に集中して立地している。
4. 原料となる木材チップを国内の森林から大量に運び込む必要があるため、製材業が盛んな内陸部に立地している。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 火力発電は電力需要の大きい都市や工業地帯の付近に立地し、水力発電は地形が急峻な河川の上流部に立地する。	火力発電は、つくった電気を効率よく届けるために消費地である都市や工業地帯の近く、あるいは燃料の輸入に便利な港湾部に立地するのが一般的です。一方、水力発電は水の落下するエネルギーを利用するため、山間部の急峻な地形をした河川上流部が適しています。
問2	答え 1 都市部の過密を解消するため、鉄道沿線などの郊外にニュータウンと呼ばれる大規模な住宅団地が建設された。	高度経済成長期、都市部への人口集中による住宅不足や過密問題を解決するため、大阪府の千里ニュータウンのように、大都市の郊外に計画的な大規模住宅団地（ニュータウン）が建設されました。これにより、職場は都心にあるものの住居は郊外に構える世帯が増え、都市部から周辺自治体へと人口が流出する「郊外化」が進展しました。この現象は、地図や統計上で都心部の人口が減り周辺が増える様子がドーナツの形に似ていることから「ドーナツ現象」とも呼ばれます。
問3	答え 2 原材料としての豊富な木材と、加工に欠かせない刃物類の生産技術	伝統的工芸品は、その地域で手に入る原材料を活用し、独自の技術によって受け継がれてきたものです。兵庫県小野市や島根県奥出雲町では、そろばんの材料となる木材が豊富であったことに加え、古くから金物（刃物）の産地であったため、木材を細かく削り出すために必要な道具も地域内で確保できました。このような「原材料の確保」と「関連する製造技術」の存在が、特定の工芸品がその地に根付くための重要な立地条件となります。
問4	答え 3 近郊農業	大都市という巨大な市場（大消費地）のすぐ近くで農業を行うことで、輸送コストを抑えつつ、鮮度が落ちやすい野菜などを新鮮な状態で市場に届けることができます。関東地方の各県で野菜の産出額が多いのは、日本の首都である東京という巨大な消費地を背後に控えているためです。ビニールハウスなどを用いて出荷時期を早める促成栽培や、高冷地などで出荷時期を遅らせる抑制栽培とは、市場へのアプローチの仕方が異なります。
問5	答え 3 地熱発電	火山地帯の地下にあるマグマの熱を利用して水蒸気を発生させ、タービンを回して発電する仕組みを地熱発電と呼びます。火山が多く存在する九州地方などに多く立地しており、環境負荷が低い再生可能エネルギーとして注目されています。
問6	答え 2 中京工業地帯	愛知県、岐阜県、三重県にまたがるこの工業地帯は、豊田市などを中心に自動車工業が極めて盛んです。統計上でも輸送用機械の占める割合が約50%に達しており、他の工業地帯と比べて特定の産業が突出して高いという明確な特徴があります。
問7	答え 1 高温環境下でも安定した品質と収穫量を維持し、気候変動による影響を抑えるため	地球温暖化が進むと、従来の品種では「米の粒が白く濁る」「実りが悪くなる」といった被害が発生しやすくなります。これに対処するため、高温の状態でもしっかりと成長する「高温耐性」を備えた品種を開発・導入することで、将来にわたって安定した農業経営と食料供給を確保することが主な目的です。冷害対策とは、むしろ逆の環境変化に対応しようとする取り組みです。
問8	答え 1 大分県には活火山が多く分布し、地下の熱エネルギーを得やすい環境にあるため	地熱発電は火山の地下にあるマグマの熱を利用するため、阿蘇山周辺をはじめとする火山活動が活発な地域に集中しています。大分県は別府や湯布院などの温泉地としても知られる通り、地下の熱資源が豊富であるため、地熱発電の普及が進んでいます。
問9	答え 2 自動車産業などの製造業が盛んであり、多くの労働力を必要としているため	北関東（群馬、茨城など）や東海地方（愛知、三重など）は、日本でも有数の工業地帯・地域を形成しています。特に自動車関連などの製造業の工場が多く集まっており、そこでの人手を補うために多くの外国人が暮らしていることが、在留外国人の割合を高める要因となっています。
問10	答え 3 液化天然ガス	天然ガスは気体のままでは体積が大きいため、超低温に冷却して液体（Liquid Natural Gas = LNG）にすることで体積を600分の1にし、専用のタンカーで輸入しています。輸入先はオーストラリアやマレーシアなどのアジア・オセアニア地域が中心です。
問11	答え 2 水はけの良い台地や傾斜地を利用して、茶などの栽培が行われている。	3つの点が三角形に並ぶ記号は「茶畑」を示します。茶は生育に多量の水を必要としますが、根が腐らないよう水はけの良い土地を好むため、静岡県の牧之原台地のように、水はけの良い台地や山の斜面などで栽培が盛んです。土地の高さや水の得やすさといった地理的条件と、栽培される作物の関係を理解しておくことが重要です。
問12	答え 2 燃料を積んだ船が直接到着できる臨海部に立地することで、輸入から発電までの輸送効率を高めている。	日本の火力発電所が海岸線に集中しているのは、資源の乏しい日本がエネルギー源を海外に求めている状況を反映しています。大型専用船での大量輸送は、パイプラインや陸上輸送に比べてコストを抑えられるため、船から直接燃料を補給できる「臨海部」が選ばれます。これにより、燃料の輸入からエネルギー供給までの流れをスムーズにしています。